

「県内隅々に音楽届ける」

実行委員会見 沖澤さん 2年目へ抱負

リモートで記者会見に臨んだ沖澤さん



10月31日から11月8日に県内各地で開かれる「青い海と森の音楽祭2026」に向け、東奥日報社などで行われる実行委員会は10日、青森市の東奥日報新町ビルで記者会見を開いた。芸術



青い海と
森の
音楽祭

10/31-11/8

総監督で指揮者の沖澤のどかさ(同市出身)、音楽主幹でソプラノ歌手の隠岐彩夏さん(五所川原市出身)らに参加し、沖澤さんは「県内の隅々まで音楽を届けた」と2年目の音楽祭への意気込みを語った。

会見には隠岐さん、実行委員長の塩越隆雄東奥日報社会長、入山功一事務局長が出席。ベルリン在住の沖澤さんはリモートで参加した。塩越委員長は「(昨年の第1回は)会場に詰めかけた多くの来場者に大きな感動を与えた。今年も新たな試みを広く展開していく」とあいさつ。隠岐さんは「さらにいいものをつくろうと意気込んでいる。この流れを絶やさず取り組みたい」と語った。

今年ではアウトリーチ(出演演奏会)先を初めて公募したほか、青森市の青森公立大学、県立美術館アレコホールでの演奏などを新たに行う。構想や曲目などは昨年の音楽祭会期中から意見交換を重ねてきたとい



記者会見に出席した(左から)入山事務局長、塩越委員長、隠岐さん10日午後、青森市の東奥日報新町ビル



個性が見えるサイズのオーケストラ。面白い演奏ができると思う」と語った。音楽祭は「故郷に音楽の種をまいて恩返ししたい」という沖澤さんと隠岐さんの思いから実現。昨年は東通村や青森市を会場に国内外で活躍する音楽家たちが一流の音楽を届けた。今年

も中泊町や八戸市でのアウトリーチや青森市での室内楽演奏会、ファミリーコンサート、青森、弘前両市でのオーケストラコンサートなどを9日間にわたって開く。有料公演チケットの一般販売は7月18日からの予定。(秋村有香、長谷川恵子)